

第1回技術検討会における指摘事項と回答

資料及び 該当ページ	質問・指摘事項	回 答
資料全般	公開する資料はどの資料か。 (井口委員)	農林水産省が8月末に公表する資料は、資料1及び資料2である。 なお、沖縄総合事務局のHPに公表する資料は、第1回技術検討会のすべての配付資料（資料1～5）及び議事録であり、第2回技術検討会も第1回技術検討会と同様である。
資料3 再評価説明 資料P15	P15 農業産出額 工芸作物とは何を指しているのか。 (井口委員)	沖縄県の代表的な工芸作物は、葉たばこ、さとうきび、茶などであり、等として例示している。 ただし、伊江地区における工芸作物は、葉たばこ、さとうきびである。
資料3 再評価説明 資料P13、15 P27、28、30	P13 地域農業の状況 P15 農業産出額 P27 単位当たり収量の変化 P28 農産物価格の変化 P30 作物生産効果のうちの增收率 これらの資料において記載している作物の統一性がなく比較しにくい。 (井口委員)	資料はできるだけ統一し、P13では農業産出額が多い花き（きく）、葉たばこ、野菜、さとうきびで整理した。 P15の凡例は上記のとおりである。 P27、P28に記載する作物は花き（きく）、葉たばこ、野菜、さとうきび、飼料作物で整理した。なお、野菜は作物面積が多いとうがんとし、飼料作物は産出額に反映されないため最後に整理した。 また、P28の飼料作物は、市場取引がないため記載していない。 P30の増収率のグラフについても、同様な作物で整理した。

資料及び 該当ページ	質問・指摘事項	回 答																																								
資料3 説明資料 P15、P16	<p>資料3 P15 農業産出額 資料3 P16 総農家数、販売金額規模別農家数 伊江村の農業産出額はこの10年で20%減少、また総農家数が21%減少している。耕地面積が変わらず耕作放棄地も増えていない中で減少している要因は何か。 (幸喜委員、吉永委員)</p>	<p>伊江村の農業産出額は、全体の約70%を占める「花き」、「葉たばこ」が、平成12年度と平成22年度と比較して減少している。これは、H12年度と比較すると面積減、価格減少が要因にある。</p> <table border="1" data-bbox="1028 620 1888 890"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">花き</th> <th colspan="2">葉たばこ</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>H12</th> <th>H22</th> <th>H12</th> <th>H22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業生産額(千万円)</td> <td>177</td> <td>140</td> <td>135</td> <td>99</td> <td></td> </tr> <tr> <td>生産額に占める割合(%)</td> <td>41</td> <td>40</td> <td>31</td> <td>28</td> <td></td> </tr> <tr> <td>作付面積(ha)</td> <td>91</td> <td>85</td> <td>344</td> <td>274</td> <td></td> </tr> <tr> <td>単位当たり収量 (千本, kg/10a)</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>191</td> <td>182</td> <td>花きについては出荷量で 単位は千本、本あたり</td> </tr> <tr> <td>単価(円/本, kg)</td> <td>57</td> <td>46</td> <td>2,056</td> <td>1,993</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>また、平成22年度の減少要因の主な理由は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 花きは、東日本大震災の影響(H23.3)により、最も需要の高い彼岸期にキャンセル、出荷制限、価格暴落が発生。 葉たばこは、3月の低温と強風による根傷み、梅雨明け6月からの高温による疫病の発生により生産量が低下。 <p>総農家数の減少は、高齢化の進展に伴うリタイヤが要因と考えられる。しかしながら、生産農業所得は県の約400百万円に対し、本地域は約700万円と上回ること、また50歳未満の農業経営者の割合も県の10%に対し、本地域は20%と県平均の水準より高い状況にある。さらに、本地域の新規就農者はほぼ40歳未満の青年就農者が占めている。</p> <p>今後、国営事業等による用水手当を契機に、地域農業の更なる発展に向け、関係機関が連携し対応していくことが必要と考えている。</p>	項目	花き		葉たばこ		備考	H12	H22	H12	H22	農業生産額(千万円)	177	140	135	99		生産額に占める割合(%)	41	40	31	28		作付面積(ha)	91	85	344	274		単位当たり収量 (千本, kg/10a)	34	36	191	182	花きについては出荷量で 単位は千本、本あたり	単価(円/本, kg)	57	46	2,056	1,993	
項目	花き			葉たばこ		備考																																				
	H12	H22	H12	H22																																						
農業生産額(千万円)	177	140	135	99																																						
生産額に占める割合(%)	41	40	31	28																																						
作付面積(ha)	91	85	344	274																																						
単位当たり収量 (千本, kg/10a)	34	36	191	182	花きについては出荷量で 単位は千本、本あたり																																					
単価(円/本, kg)	57	46	2,056	1,993																																						

資料及び 該当ページ	質問・指摘事項	回 答
資料3 説明資料 P35	<p>資料3 P35 事業コスト縮減等の可能性 ファームポンドの石積みは、コスト縮減的には非常に効果があると思うが、景観効果として計上できるのか。 ファームポンドの石張りは水辺環境整備効果といえるのか。</p> <p>(吉永委員、立原委員)</p>	<p>水辺環境整備効果は、環境に配慮した設計、構造とすることにより、地域住民の生活環境や利便性の向上はもとより、広く都市住民等へ「憩いの場」、「やすらぎの場」等を提供するもので、その要因は①親水空間として水辺をもった公園と同等の機能が創出、②豊かな生態系が保全される、③地域と調和のとれた景観が保全・創出されるものである。</p> <p>本地域では、優れた風景地に貴重な動植物の生息・生育が確認されていることから、より自然生態系に配慮した農村環境の育成を目指すこととし、ファームポンドに石張（琉球石灰岩）を追加した工法は、周辺の景観に配慮しつつ、地域住民に親しまれる施設として整備していることから効果として見込んだところである。</p> <p>なお、現在は、景観・環境保全効果と名称を変更し算定している。</p>
	<p>塩害防止効果 現地調査できく農家の方も言っていたが、台風後の除塩や薬剤散布に水を実際に使っている。これを効果として見込んでいるか。</p> <p>(吉永委員)</p>	<p>塩害防止はかん水することで作物体に付着する塩分または土壤塩分を除去することによって被害軽減が図られ、収量が維持される効果である。</p> <p>ただし、その算定の基礎となる具体的なデータがないことから効果として計上していない。</p>